

兵庫かけ橋

二〇二五(令和七)年

第 65 号

(発行者)

神戸市中央区下山手通

八丁目一番一号

兵庫教区教務所内

電話番号 〇七八・三四・五九四九

兵庫教区門徒推進員

連絡協議会

会長 前田 正英

～ご挨拶～

兵庫教区教務所長 西本 浩二



兵庫教区門徒推進員連絡協議会会員の皆さまには、日頃よりご門徒の範として率先しての聴聞、そして各ご寺院・各組において、お念仏の朋の輪を拡げるためご尽力をいただいておりますこと、厚く御礼申しあげます。

さて、私は本年六月一日付けにて兵庫教区教務所長・本願寺神戸別院輪番を拝命させていただきました。自坊は四州教区(四国)の徳島

県三好市の山間地にある寺院で、四州教区教務所・本願寺塩屋別院に三十年間奉職してより、大分教区教務所、本願寺、山口教区教務所を経て、この度兵庫教区にご縁をいただいたこととです。初めてのご縁をいただいた任地でもあり、まだ分からないことが多くありますが、教区内のご寺院ご門徒の皆様よりご指導並びにご協力をいただきながら、微力ではありますが、兵庫教区において益々お念仏繁盛となりますよう勤めさせていただきます。ただきたく、宜しくお願い申し上げます。

さて、現在の本願寺神戸別院・兵庫教区強化センターは、ご承知の通り「阪神・淡路大震災」と同年に建立されました。都市部における大地震は多くの人命

を奪い都市機能を麻痺させるなど、その後の建物の耐震化や、都市計画に大きな影響を与えました。当別院は当時の最新工法により建設されていたため、現在でも耐震に関しては全く問題がありませんが、三十年の歳月は経年劣化を進め、この度の「令和大修復工事」では、雨漏りが発生している屋根の防水処置工事、表面のモルタル塗装の剥離が多数散見される外壁の修復工事、地下駐車場の壁からの濾水防止処置工事が実施されており、工期は明年三月末までで、工事も順調に進んでいます。

教区内ご寺院、ご門徒の皆様には、コロナ禍や過疎化を含む人口減少等により、寺院運営に苦慮される中で新たなご負担をお掛けいたしますこと、深くお詫び申し上げますとともに、別院が引き続き兵庫教区教化センターとして、伝道教化活動の中心として、また皆様の別院として次代に進んでいきますよう、何卒実情ご賢察いただきご協力賜りますようお願い申し上げます。

合掌

聞 佛 所 説

暑さ寒さも彼岸までと言いますが今年は急に冷え込んだように思えます。◆最近、法務等で自坊に帰る機会が増えたためそろそろタイヤの交換を考える時期になってきました。◆自坊に帰りますとまず、家族で阿弥陀様に手を合わせ毎朝、お朝事で阿弥陀経をお勤めいたします。◆私には、十二月で三歳になる娘がおりますが、今では教えたわけでもなくこれはおじいちゃんの、これはおばあちゃんのと、それぞれが使っている経本と念珠を渡してきます。◆子どもというのは私たちが思っている以上に私たちの仕事や姿勢をよく見ているんだと、感心したのを今でも覚えています。そうなりますと私も変な姿勢や間違った作法をしてはいけないと気が引き締まりながらお勤めをいたしております。◆昔、ご門徒さんのお宅にお参りに行ったとき「住職とお勤めの仕方がよう似てきましたね」と言われたことがあります。私は高校から京都に出て、ほとんど地元にはいなく、父親からお勤めを習ったこともないのですから大変驚きました。◆父親になった今、私も娘と同様に幼いころから両親の姿を見て学び、両親も、そのまた両親もと、代々ご先祖から受け継いできたものが今、私や娘に届いていると思います。◆これからは受け継いできたお念仏と共に歩ませていただきますように。

虎城正道

兵庫教区門徒 推進員の皆さま

兵庫教区前教務所長 松本 隆英



今年もこうして「かけはし」が発行できますことをお喜び申し上げます。

私自身、5月末に突然の異動の連絡があり、当初は相当混乱しましたが、数か月が過ぎ、ようやく北陸での生活に慣れてきました。その一方で、ときどき、兵庫の門推の皆さんの顔を懐かしく思い出しております。

一番の思い出はやはり昨年の「慶讃法要」です。法要の事前準備、揃いの法被を着ての参拝者の送迎、後片付けなど、皆さんと賑やかに4日間を過ごすことができました。無事、円成できましたのも皆さんのお力添えがあったからこそ思っております。

また、「門徒推進員という生き方【理念】」についての学習会をさせ

ていただきました。「年齢を重ねて、寺院の活動に取り組むことができず門徒推進員を続けられない」という方がおられる中で「お念仏申させていただくその姿が周りの人々に伝わるからこそ門徒推進員として大切な役割」とお話しさせていただいたことも思い出の一つです。

6月からは石川教区と福井教区の教務所長を兼務しています。石川は約30名、福井は約200名の門徒推進員さんがおられます。両教区においてもそれぞれ工夫しながら活動をされている一方で高齢化や中央教修受講者の減少などが課題となっております。

石川教区は少ない人数ですが、その分、一体となって能登半島地震の復興支援活動や各別院などへ研修旅行などを行っております。

福井教区は活動の特色として、実践運動の各研修会へ積極的に参加しよう、ということがあげられます。そのため、教務所でたびたび門推さんのお顔を拝見しております。また「連研のための研究会」では連研が休止中の組があったり、組の役員の世代交代も進む現状か

ら、もう一度連研を活性化させようと昨年は「連研開催に向けて」、今年は「連研開催の進め方」講師をするうえで何が「必要か」をテーマに取り組んでおられます。兵庫教区での活動の参考にさせていただければと思います。

兵庫、福井、石川と場所は離れていても核家族化、少子高齢化、そしてコロナ禍を経て、お寺を取り巻く状況は大きく変化していることは変わりありません。門徒推進員の皆さまには、こんな時代にあっても変わらぬみ教えをこれからもお聴聞し、そして伝えていただきたいと思います。

3年2か月の在任期間でしたが、皆さんといろんな思い出できました。どうぞ、ご自愛の上、またどこかでお会いできればと思っております。ありがとうございます。



金沢別院



福井別院

「中央教修」 参加のススメ

揖龍東組善導寺住職 天野 真隆

近年、私たちが生きている社会は激変し続けています。

お念仏よろこぶ方々で育まれてきた仏教婦人会・仏教壮年会、少年連盟に仏教青年会と各団体は地域差はありますが、存続の危機に陥っています。

お預かりしている善導寺も私が入寺した時（平成23年）には昭和時代に設立された仏教婦人会・少年連盟（本年度再加入）・仏教壮年会と全て解散していました。一度解散したものを再開する（立ち上げる）ことは大変難しいことは、このことに限らず世間全般でも言えることでしょう。

善導寺では、再開のメドがたたない時に、老若男女全ての人が浄土真宗のみ教えを伝える環境作りが出来るにはどうすれば良いのかを当時の総代さん方と相談し考えた結果、門徒推進員を養成し、その方々とともに活動していくことにしました。

門徒推進員連続研修会（連研）は、1978（昭和53）年にはじまり、今日まで47年の長きにわたり取り組まれています。現在、宗門をあげて進められています「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）」を、門徒として、僧侶とともに強力に推進するために、主に組として、連続的に開催されている取り組みです。そして、門徒推進員を養成する最後の研修会が中央教修とよばれるものです。

門徒推進員の具体的な役割については、2023（令和5）年6月30日付「門徒推進員という生き方【理念】」に「門徒推進員は、生涯念仏者の自覚をもって寺院、家庭、職場、及び地域などで、み教えに基づいた生活（生き方）を続けます。さらに、寺院・組・教区・特区・開教区（開教地）の門信徒・僧侶・寺族とともに、教団の運動の推進にあたります。」とあり、善導寺では門徒推進員さんと連携し、法要参加者の式章着用率100%をはじめ、文化祭（報恩講お待ち受け法要）の開催と運営、1年に1度の遠足（旅行）、グランドゴルフ大会の開催するなどの活動をし

ています。

なかでも、地域の門信徒の皆さんや浄土真宗の門信徒以外の方も参画されて行われる報恩講お待ち受け文化祭は、門信徒会運動40周年・門徒推進員20周年記念大会2002（平成14）年におけるご親教「今までの習慣でお寺とつながる門信徒のあり方や受け身の姿勢を越え、同じ教えに生きる朋となつた門信徒の姿であります」と示された内容を具現化したものと言えます。

とはいえ、人口減少しつづける社会において活動継続には多くの課題がありますが、残された皆さんと先達方の意志を継いで頑張りたいと思います。その第一歩として組連研終了後に中央教修にいくことを行かれた方々がオススメいただきたいと思います。

門徒推進員に なつての喜び

神戸湊組 中西小夜子

私が兵庫教区門徒推進員を拝命して、今年で32年の月日が過ぎま

した。

当時、教区では珍しかった「寺連研」を私たち夫婦と集落のご門徒数十人の方たちとが、お手次寺のご住職から「連研」という学びの機会をいただきました。

数年後、おかげ様で寺連研を無事に修了させていただき、私と夫は再び京都東山大谷本廟にて、浄土真宗本願寺派主催の中央教修において学びのご縁を頂戴したので

す。

全国からご参加された40代～60代の同朋さま方と、第95回中央教修の学びの場に集いました。

私は、慣れない朋友仲間と大谷本廟で、早朝6時のお朝事から夜の就寝勤行までの長時間、厳しい3泊4日の教修受講に当時は必死に取り組みました。ですが現実には戸惑いと大きな不安との闘いでもありました。辛い、帰りたいと涙する中、夫の励ましに支えられながら無事終了の日を迎えることができたのです。苦しい、辛い、の4日間と記憶しております。

30数年過ぎた現在もこの当時、短期間でしたが寝食を一緒にして、泣き、笑いを共にした同班の他教

区の同期門徒推進員さんとはお互いに老年期ですが現在も、数年に一度ご本山でお出合いをしております。

また、メールやラインで寺、組、教区での門徒推進員活動の意見交換もしております。長年、夫婦二人三脚で寺、組、教区活動を共にしてきた夫は、今はお浄土に還り、今年で十七回忌をお迎えいたしました。独り身になった現在も、同朋門徒推進員さまに支えられ、助けていただきながら、「あの時」の中央教修の学びがあったればこそ今の今、生きる私の指針となっております。

苦しい時、辛い時、必ず甦る事の中に門徒推進員になったばかりの私、阪神・淡路大震災の未曾有の大災害が神戸を襲い、兵庫教区門徒推進員として諸先輩の後をついて行ったボランティア活動が懐かしく思い出されることです。

浄土真宗の門徒として、尊い「み教え」を愛する子供や孫たちに伝え、限りある命をおかげさまの聴聞の日々で生きたいです。お念仏とともに生かされている我が命が愛おしく思う日々であります。

令和大修復について

姫路中組 前田 正英

本願寺神戸別院・兵庫教区教務所・兵庫教区教化センター令和大修復についての趣意書(案)の記事より【現・本願寺神戸別院は「阪神・淡路大震災」が発生した平成7年に旧・神戸別院の趣きを残して完成し、令和7年に築30年を迎えることになりました。

本願寺神戸別院の前身である善福寺は、明治41年に大谷尊由師を住職に迎え別格別院になり、昭和5年には日本初のインド仏教様式デザインによる鉄筋大寺院として完成しました。そして、平成7年に現・神戸別院が完成して以降、今日にいたるまで、兵庫教区における佛法義繁盛の中心道場としてまた、伝道教化センターとして浄土真宗のみ教えを発信してまいりました。】と記載されたのを読んで神戸別院の歴史を学ばせていただきました。私は、平成5年に中央教修を終えてから、所属寺のことをできるところから大切にしようと考えてい

ました。しばらくして、当時の門徒推進員連絡協議会会長の中西様そして姫路西組幹事の高原様より研修会打ち合わせ役員会の連絡をうけました。何のことか分らぬままに参加させていただき、それ以降姫路中組の幹事として神戸別院仮事務所に出向くようになりました。神戸市役所の南にあり、2階建てのプレハブでした。しばらく門推として活動し始めたころ阪神・淡路大震災が発生いたしました。建設中の別院は大丈夫でした。ここから私の人生において学ぶ場所になりました。門徒推進員の会議・研修会等、ご縁があつて新築の別院で中仏の毎月のつどい会に参加し、ビハーク兵庫の公開講座で感動し、ビハーク活動に参加と学習の場が広がっていきました。あれから30年感謝申しあげます。今は年金生活ですが、微小ながらも協力させて頂きたいと思えます。



防水 側溝



防水 側溝



シャッター取換え



シャッター取換え



止水 地下 左官仕上げ



止水 地下 止水材注入



足場



足場



塗装 外壁



塗装 外壁

標語

二〇二四年度～
二〇二五年度募集

本堂の

ぞうさんがけに

報恩の思いわく

姫路中組 順正寺 前田正英

盟友の「法眼」悼みて

唱和する如来大悲の

「恩徳讃」や

佐用組 常徳寺 藤木正助

両の手を合わせて

願う平和の輪

南無阿弥陀仏

出石組 西方寺 宮下美代子

我が命

阿弥陀の御手に抱かれて

今日も感謝の南無阿弥陀仏

揖龍東組 専光寺 玉田ますみ

目を閉じて

心静かに

南無阿弥陀佛

阪神南組 正恩寺 檜川恵一

南無阿弥陀仏

日々に唱えて

こころ晴れ

阪神東組 浄宗寺 萩原孝志

この時代

疑心無き世にならぬかと

ただ信ずるは佛の教え

神明組 光源寺 米谷陽子

お浄土参りを願へども

地獄必定

彌陀まかせ

網干組 龍源寺 松浦平

お聴聞

凡夫・我人生の

調味料

助手席で

お親様（あなた）まかせの

南無阿弥陀佛

赤穂北組 専称寺 本林宗興

聴聞の喜び

健やかな日々に

感謝

仏前で

先逝き人の

念仏の声懐かしく

春休み

孫の手を取り

別院まいり

神戸湊組 行願寺 中西小夜子

たまに忘れものするけれど

忘れはしません

朝な夕なの南無阿弥陀仏

慣れという

当たり前化に気づかねば

佐用組 法覚寺 黒崎文子

恩徳讃しか知らない私

宗教歌の多くにおどろいた歌は

心をなごませる

推進員となり

宗教歌とめぐりあい

人の広がりを感じず

姫路中組 安楽寺 笠井公美子

朝に夕にと

呼び声いただき

手を合わす

阪神組 明徳寺 田口敦子

今は亡き

親の教えに

手を合す

出石組 西宗寺 中嶋良光

不安の中

称える

南無阿弥陀仏

揖龍西組 正専寺 嶋田麗貴

能登半島災害支援の今

兵庫教区教務所職員 虎城 正道

令和6年1月に発生した能登半島地震から、まもなく2年が経とうとしております。メディアでの報道も少なくなり、現地の状況が見えにくくなってきているのが現状です。

宗派では、能登半島地震発生直後から金沢別院内に「浄土真宗本願寺派能登半島地震支援センター」を設置し、宗派職員・地方職員を中心に、



ボランティアの皆さまとともに支援活動が続いております。私自身も定期的に現地へ出向き、微力ながら支援に携わっております。

当初は、被害状況の把握や倒壊した建物の片付けなど、人手が不足する状況が続きました。今年の中頃からは、「ご縁サロン」と称した現地の皆さまとの交流会を定期的に開催しております。炊き出しやご縁サロンを通して心のケアも、重要な支援活動であることを改めて痛感しております。

今後も、被災された皆さまに寄り添いながら、できる限りの支援を続けてまいりたいと存じます。

門推の日 参加者募集

期日 毎月第二土曜日 10:00~12:00

会場 神戸別院 3階会議室

特記 13:30より神戸別院第二土曜日
仏教講座に参加
(7月、10月、11月、12月)

どなたでも参加OK。
会員同士の交流を深めましょう。

新会員紹介

会員番号、氏名、所属寺、中央教修での
決意表明を紹介しています。敬称略。

七五一番

宮 奥 正 一



289 回 淡路組

浄光寺

◆私は親鸞聖人のみ教えを生涯学び続けることを誓います。

七五二番

早 草 貴 子



289 回 神崎組

乗徳寺

◆私は神崎組の連研のお手伝いをしたいと思っています。

七五三番

福 田 義 雄



292 回 赤穂北組

得乗寺

◆私は門徒推進員としてお寺が地域の中で根付いた、開かれた得乗寺になる様に努めます。

七五四番

前 川 裕 幸



292 回 赤穂北組

得乗寺

◆私は、これからも人との繋がりを大切に生きてまいります。

令和6年能登半島地震により被災された皆さまに
衷心よりお見舞い申し上げます

浄土真宗本願寺派 兵庫教区・本願寺神戸別院

浄土真宗本願寺派 たすけあい運動募金「令和6年能登半島地震 災害義援金」受付先

1. 受付口座番号 ● 郵便振替 01000-4-69957
加入者名 たすけあい募金
- 銀行振込 銀行 ゆうちょ銀行 店名 一〇九(イチゼロキユウ)店
番号 当座 0069957 名義 たすけあい募金
- ※通信欄に「能登地震」とご記入のうえ、住所、連絡先、領収書名をご記入ください
2. 問い合わせ先 浄土真宗本願寺派伝道本部 社会部<災害対策担当>
TEL:075-371-5181 Mail:saigai-taisaku@hongwanji.or.jp